桜庭・ヴィクトリア・瑠莉は
エッチで天使でブライダル♪

※本編と異なる箇所がある場合がございます※

トラック1_天使再臨

【瑠莉】「んっ……今日で今週の学園もおわり」

【瑠莉】「明日からまた休日、朝から晩までずっと一緒」

【瑠莉】「エッチで淫らな爛れた日々……楽しみ。ムフーー♪」

【瑠莉】「ん……そんなにエッチばっかりじゃダメ？」

【瑠莉】「むーー、今まで所かまわずいっぱいエッチしてきた。今更そんな事いってもダメ」

【瑠莉】「それとも、私とのエッチな記憶、忘れちゃった？」

【瑠莉】「あんなに私の事押し倒して、欲望のままにエッチしてたのに」

【瑠莉】「昔の私だけじゃなくて、今の私まで忘れてたら許さない」

【瑠莉】「今すぐ家に帰って思い出して。話はそれから」

【瑠莉】「ん、押し倒されて襲われたのはむしろ俺のほう？」

【瑠莉】「それは見解の相違」

【瑠莉】「始めは私が誘っても、後半はいつもそっちが野獣になって私を襲ってた」

【瑠莉】「……でも、確かに最近はあまり激しくエッチしてくれてないかも……」

【瑠莉】「これが噂に聞く倦怠期……それはダメ、破局の危機」

【瑠莉】「何か新しいスパイスを加える必要がある……そう、今までにない新しいこと……」

【瑠莉】「うん、決めた」

【瑠莉】「早速明日の朝から決行する。今までにない特別なこと」

【瑠莉】「楽しみに覚悟しておいて」

トラック2_天使のお汁は蜜の味

【瑠莉】「ん、やっぱりまだ寝てる」

【瑠莉】「せっかくの土曜日、いつまでも寝たままじゃもったいない」

【瑠莉】「寝坊助な旦那様を起こしてあげる、これもまたお嫁さんの役目」

【瑠莉】「ということで、早速……」

【瑠莉】「ほら、起きて、起きて」

【瑠莉】「うー、まだ起きてくれない。いい加減に起きてくれないと……」

【瑠莉】「このまま襲っちゃう……性的に」

【瑠莉】「あ、起きた。おはよう、〝ダーリン〟」

【瑠莉】「ん？　ぼーっとしてる……まだ眠い？」

【瑠莉】「違う？　ちょっと聞きなれない単語が聞こえたからもう一回言ってほしい？」

【瑠莉】「わかった。寝起きに私のおはようをもう一度聞きたいなんて、なかなか可愛いお願い……嬉しい」

【瑠莉】「それじゃあ……おはよう、〝ダーリン〟」

【瑠莉】「ん、困惑した顔してる」

【瑠莉】「そう、今日と明日、私はお嫁さんという設定。だから、この休日は呼び方をダーリンで統一する」

【瑠莉】「最近はただイチャイチャしてるだけで、新鮮味が失われてた」

【瑠莉】「このままじゃ付き合って1年も経たず倦怠期に突入、そのままエッチがマンネリになって破局……それだけはダメ、そんなことになったら私が耐えられない」

【瑠莉】「ん、私もそんな事になるとは思ってない」

【瑠莉】「私の想いは付き合ってすぐのころから変わってない。むしろ日に日に愛しさが溢れて止まらないくらい」

【瑠莉】「でも、破局まではないにしても、エッチがマンネリになるのは割とありえる」

【瑠莉】「最近エッチが減ってきているのがその前兆」

【瑠莉】「だから、マンネリ脱却のためにもここで新しいプレイが必要。というわけで今回は新婚さんプレイ」

【瑠莉】「寮の他の人達には休日お出かけするように昨日の時点で手配済み。抜かりはない」

【瑠莉】「……ダーリン、複雑そうな表情……こういうのは、いやだった……？」

【瑠莉】「そう、受け入れてくれて私も嬉しい」

【瑠莉】「ずっと前からダーリンとの新婚生活想像してたから、ついでにここで予行練習しておく。本番は学園を卒業してから……ムフー♪」

【瑠莉】「……ん、少し妄想の世界に旅立ってた」

【瑠莉】「いい加減ダーリンの事、きちんと起こさないと新妻として失格。だから布団めくっちゃうね？」

【瑠莉】「む、何で布団から出てこようとしないの？」

【瑠莉】「せっかくの新婚生活、寝てるだけなんてつまんない」

【瑠莉】「起きてくれないなら、もっと無理矢理引っぺがすだけ……えいっ！」

【瑠莉】「やっと布団はがれた……って、あ」

【瑠莉】「パジャマの下にテントが張ってる」

【瑠莉】「いつもの朝勃ちと比べ物にならないくらいおっきい……なんで？」

【瑠莉】「目が覚めたら目の前に大好きな私がいて、ダーリンって呼んでくれた事が嬉しかったから……？」

【瑠莉】「……えへへ♪　早速新婚プレイの効果が出て嬉しい」

【瑠莉】「こんなに元気になってくれるなんて思ってもみなかった」

【瑠莉】「それじゃあお嫁さんとして、精一杯朝のご奉仕、してあげる♪」

【瑠莉】「わっ、初めて生徒会室でエッチしたときくらい大きくしてくれてる……嬉しい♪」

【瑠莉】「今、ズボンの中から出してあげるね」

【瑠莉】「んっ、きゃっ……おちんちん勢いよすぎて、私の鼻先にぶつかっちゃった」

【瑠莉】「……んっ……すんっ、すんすんっ……ふあぁ♪　一晩パジャマの中で蒸れてたからエッチな匂い、すごい」

【瑠莉】「すぅぅぅぅぅ……はあぁぁぁぁ……この濃い匂い、大好き……んっ、ちゅっ♪」

【瑠莉】「えへへ、朝からおちんちんにキスしちゃった。私をエッチな気分にしちゃうおちんちん……大好き」

【瑠莉】「もっとキスして、いっぱい気持ちよくしてあげる」

【瑠莉】
「ん……ちゅっ、ちゅっ、れろぉっ……ぴちゃっ、れろっ」

【瑠莉】
「んっ……ちゅるる、れろ、ちゅぷ、ん……ん
ちゅ、れる……ちゅぷ」

【瑠莉】
「ふふ♪　舐める度にピクピク震えて、可愛い♪
もっと、私の口で気持ちよくなって♪」

【瑠莉】
「あぁ～～～むっ……んっ、ちゅっ、れろぉっ……
ぴちゃっ、れろっ、ぺろっ、ちゅぱっ、れろれろ
れろっ……どぅ？　ひもちいい？」

【瑠莉】
「んっ、ダーリンのおちんちん、とっても濃くって
……おいひい♪　もっろ舐めたくなっひゃう…
…」

【瑠莉】
「んっ、れろっ、ちゅぷぅっ！　んっ、ちゅっ、れ
ろっ、れろれろっ……ちゅぅぅぅう、ちゅぱっ」

【瑠莉】
「んっ、んぱぁっ！　あんっ、おちんちん暴れて…
…れろれろっ！　ちゅぱっ、んっ、ちゅっ……」

【瑠莉】
「びくびく脈打って、凄くエッチ……このまま、
もっと喉の奥までくわえ込んで、ぴゅっぴゅさせ
てあげる♪」

【瑠莉】
「はぶっ！　じゅぶ、じゅりゅ……！　ちゅぶぶっ、ちゅぱ、ちゅぶ、ちゅくっ……！　ちゅぷぷっ、ちゅぱ、んちゅ……！　ぴちゅ、くちゅ……！　んんっ！　んふっ……！」

【瑠莉】
「くちゅぴちゅ……！　んちゅ、じゅぶ、じゅぶぶぶ……！　んちゅ、れろっ、ちゅく……！　ちゅぱっ、んちゅ……」

【瑠莉】
「ん♪　ん、ふっ、あむ、おちんちん、喉の奥届いて……やわらかい先っぽ、突いてくるのわかっひゃう……」

【瑠莉】
「わらひも、もっろ舌使って……うらしゅじ、舐めてあげりゅ……」

【瑠莉】
「ちゅぷっ、じゅぶぶっ……！　ちゅぷっ、ちゅぱ、んちゅっ……！　ちゅっちゅ……！　ちゅぱっ、んちゅ、じゅぶ……！　ちゅぷっ、ちゅくんっ……！」

【瑠莉】
「れるるっ、れちゅっ、あむ……ちゅばっ……ダーリンの我慢汁、ろんろん溢れて……じゅるっ、じゅるるっ、じゅるるるるぅぅぅぅ……ぷはっ！」

【瑠莉】
「今日朝一番の我慢汁、沢山出して♪　もっと新妻瑠莉のお口まんこに、いっぱい垂れ流して♪」

【瑠莉】
「はぷっ！　くちゅぴちゅ……！　んちゅ、じゅぶ、じゅぶぶぶ……！　んちゅ、れろっ、ちゅく……！　ちゅぱっ、んちゅ……」

【瑠莉】
「んー……んちゅっ、れろっ……じゅりゅっ……んちゅっ……はあああぁぁぁ……んっ……れろれろっ、ちゅっ……んちゅっ……」

【瑠莉】
「おちんちん、ビクビクって震えて、もう出ちゃいそうなの？」

【瑠莉】
「うん、いいよ。このまま気持ちよく、ぴゅっぴゅってダーリンの愛、私に注いで♪」

【瑠莉】
「あむ……ちゅばっ……じゅううっ、じゅるるっ、あむっ、れるっ、れるっ、れるっ……」

【瑠莉】
「ちゅぱっ、ちゅぷっ、じゅるじゅるじゅるっ、ちゅっ、ちゅぅぅう、ちゅうううぅぅぅ～～～～～～～～っ！！」

【瑠莉】
「あむっ、はぷっ！！　んぷぷぅううっ、ダーリンの、どぷどぷっ、いっふぁい、出てりゅぅ……」

【瑠莉】
「んー……んちゅっ、れろっ……じゅりゅっ……んちゅっ……はあああぁぁぁ……こんなに濃いの、久しぶり……んっ……れろれろっ、ちゅっ……んちゅっ……」

【瑠莉】
「こぼすのもったいないから、全部飲んじゃうね」

【瑠莉】「んっ……ごくっ……ごくっ……ごくっ……ごくっ……んんっ……ぷはぁっ！　はぁ、はぁ……」

【瑠莉】「えへへ、ダーリンの朝一番搾りのおちんちんミルク、ごちそうさま♪」

【瑠莉】「今日のミルクはかつてない勢い、そして濃い味わい……新婚プレイの力は偉大」

【瑠莉】「私もダーリンのミルク飲んで、下着がすごいことになっちゃってる……おまんこから出たエッチなお汁でびしょびしょで気持ち悪い……」

【瑠莉】「だから、パンツ、脱いじゃうね」

【瑠莉】「ん、しょっ……ダーリン、見える？　私のパンツ、愛液でシミになっちゃってるの」

【瑠莉】「そう、新婚プレイで興奮してるのはダーリンだけじゃない。私も同じ。だって、私の夢はダーリンのお嫁さんだから……興奮しておまんこからエッチなお汁が溢れちゃうのも当然」

【瑠莉】「ダーリン……私の濡れ濡れおまんこ、確かめてみて」

【瑠莉】「はぅんっ……どう？　ダーリン聞こえる？　私のおまんこの音……ぴちゃぴちゃ鳴っちゃってるの」

【瑠莉】
「ダーリンって呼ぶだけで、お腹の奥が熱くなって……お汁止まらなくて溢れちゃう」

【瑠莉】
「ダーリン、ダーリンッ……好きぃ、スキスキスキスキッ……もっと聞いて……もっと……私のエッチな新妻おまんこ、見てぇ……」

【瑠莉】
「あ、あ……っ、う、ふうぅぅ、ダーリンに見られながら気持ちいいところ弄るの……すきぃ……」

【瑠莉】
「ダーリンの吐息も、私の敏感なところ、クリトリスに当たって……あんっ！　気持ちいい……」

【瑠莉】
「いつも一人でダーリンを想ってするのとは違う……この興奮は、病みつきになる」

【瑠莉】
「あっ、ダーリンの顔に、私のおまんこ汁零れ落ちちゃってる……ねぇ、私のエッチなお汁……おまんこジュース、飲んで？」

【瑠莉】
「いつもダーリンの飲ませてもらってるから、そのお礼。遠慮しないでいい。いっぱい味わって♪おかわりもあるから、沢山飲んで♪」

【瑠莉】
「んんっ！　あっ、あぅぅっ！　ダーリンの口、大きく開いて……私のおまんこジュース、ごくごく飲んでる……」

【瑠莉】
「なんだか、雛鳥みたいで、見てると可愛くて愛おしくなる♪」

【瑠莉】「この感情は、母性？　んっ、可愛いダーリンの為に、もっとおまんこ弄って飲ませてあげる」

【瑠莉】「私の敏感なところ、クリトリスいじめちゃうね」

【瑠莉】「はうぅ、あ、あっ、ん、これ、刺激が強くて……私もすぐイっちゃいそう！」

【瑠莉】「くひぃん！　あっ、あっ！　ダメ、もうダメぇ、頭っ、真っ白になっちゃって……気持ちよすぎて」

【瑠莉】「あんっ、ダーリィン、新妻がイッちゃうところ……おまんこから潮吹いちゃうところ、見ててぇ！」

【瑠莉】「ひぐっ、イッ、イク、イッちゃう、ダーリン、イク、イクイクイク、イッちゃうぅぅぅぅぅう」

【瑠莉】「あ、ひあぁぁあぁぁんっ！　おまんこからお潮、いっぱい出ちゃってるっ！」

【瑠莉】「ダーリン、飲んでっ！　私の特性おまんこジュース、いっぱい飲んでぇ」

【瑠莉】「んんっ！　あっ、あぁんっ！　んひゃっ、やっ、やぁっ、ダメ、またイクッ！　イッちゃうぅ！」

【瑠莉】
「んっ、んんっ！！　ひゃっ！　ダメぇ！　あっ、あぁっ！　んんっ！　んっ、ひゃうぅ……はぁ、はぁ……またおまんこからお潮吹いちゃった……」

【瑠莉】
「朝から凄く激しくイっちゃって……あ、ダーリンがごくごくって私のお潮飲んでくれてる……あぁ……全部飲んでくれて嬉しい……♪」

【瑠莉】
「ねぇ、ダーリン？　私のおまんこジュース、おいしかった？」

【瑠莉】
「ふふっ、堪能してもらえたみたいでよかった」

【瑠莉】
「えへへ♪　もしダーリンが望んでくれるなら、いつでも飲ませてあげる♪」

【瑠莉】
「お家ではもちろん、お外でも、学園でも……喉が渇いたら言って♪」

【瑠莉】
「すぐおまんこ弄って、出してあげる」

【瑠莉】
「んっ、冗談なんかじゃない。それに、私もダーリンに見られながらのオナニーは好き。この興奮は病みつきになること間違いなし。これからも、いっぱいする……ムフー♪」

【瑠莉】
「……って、あ、もうお昼になる……流石にそろそろ起きないといけない時間」

【瑠莉】「ダーリンもお腹空いたころ。食事は作り置きしておいたから、温めて一緒に食べよ」

【瑠莉】「さ、起きて、ダーリン♪」

トラック3_天使の餌付け術

【瑠莉】「はい、おまたせ。お昼ご飯温めなおしてきた」

【瑠莉】「今日のお昼はダーリンが好きなメンチにした」

【瑠莉】「全部私が一からこねて作ったお手製。バイトの余りでもらってくるような安物とは違う。私の愛情をいっぱい詰めておいた」

【瑠莉】「ん？　何で朝食じゃなくて始めから昼食を用意していたのか？」

【瑠莉】「今日は朝からダーリンとエッチな事するつもりしかなかったし、きっと朝食には間に合わないと確信してたから、あらかじめ昼食用の料理を作っておいた」

【瑠莉】「出来るお嫁さんは常に2手3手先を見据えて行動する」

【瑠莉】「ダーリンとは付き合い始めてもうすぐ1年になるしこれぐらいの準備は出来て当然」

【瑠莉】「……ふふっ、そう。今日の私はお嫁さんだから、普段とは一味も二味も違う。新婚生活、存分に堪能して、ダーリン♪」

【瑠莉】「それじゃ、せっかく温めたお昼、冷める前に食べよ」

【瑠莉】「……ん？　右腕が私に腕組されてるから食べられない？　それは問題ない。わざとだから」

【瑠莉】「せっかくの新婚生活、少しでも一緒にいるために、食事中でも腕組は止めない」

【瑠莉】「その分、ダーリンのご飯は私が食べさせてあげる。そのつもりでスプーンとフォークも一組しか用意してないから」

【瑠莉】「はい、ダーリン。あ～ん、して」

【瑠莉】「あ～～～～んっ♪　ふふっ、おいしい？」

【瑠莉】「ダーリン、顔真っ赤。いつも学園でするあ～んとは反応が違う。やっぱり新妻にあ～んしてもらう方が興奮する？」

【瑠莉】「ん、そこまで嬉しそうにしてくれると、私も嬉しくなるし、もっとしてあげたくなっちゃう」

【瑠莉】「ほら、もう一度……」

【瑠莉】「はい、あ～～～～んっ♪」

【瑠莉】「……うん、朝エッチした時もそうだったけど、私、ダーリンに何か食べさせたり飲ませたりするの好き。口を開けて待ってる顔、とっても可愛いから」

【瑠莉】「これからは毎日毎食あ～んってしてあげたい」

【瑠莉】「ふふ♪　私が傍にいる限り、ダーリンがお箸やフォークを持つことはもうない。お箸より重いものどころか、お箸すら持てない体にしてあげる……」

【瑠莉】「流石に冗談。そこまでひ弱になられると困っちゃう……でも、そんなダーリンのお世話をする日々は楽しそう……老後の楽しみに取っておく」

【瑠莉】「ん、そろそろ私もお腹空いたから食べる」

【瑠莉】「あむっ、んっ、んっ……(咀嚼)、ん……ごくっ……ムフー♪　ダーリンとの間接キス、おいしい♪」

【瑠莉】「エッチなキスも大好きだけど、こういったキスも好き。ダーリンも、このフォークで間接キスしよ？」

【瑠莉】「はい、あ～～～～んっ。……どう？　おいしい？」

【瑠莉】「ふふっ、じゃあ今度は、もっとエッチに食べさせてあげる」

【瑠莉】「あ～むっ、んっ、んっ、んっ、んんっ……(咀嚼)」

【瑠莉】
「はむッ、んんっ、んっ、ちゅっ、んぢゅ……ちゅうう、んぢゅるっ……んじゅっ、ちゅぅ、ちゅっ……じゅるるっ……ぷぁぁっ、はぁぁんっ……」

【瑠莉】
「んじゅっ、ちゅっ、ちゅっ……好き……しゅきぃ……じゅるる……はぁんむっ、ちゅう、んちゅう〜〜〜っ……じゅっ、ちゅっ……」

【瑠莉】
「んんっ、ぷはぁッ！　はぁ……ん、口移し。私とダーリンの唾液でトッピングされて、とってもエッチな味わい。世界に一つだけの味……これはクセになる……美味」

【瑠莉】
「決めた。今日の昼食は全部口移しで食べさせてあげる」

【瑠莉】
「お互いに唇がふやけちゃうくらい、いっぱい口移ししようね、ダーリン♪」

トラック4_天使の甘やかせ術

【瑠莉】「ムフー♪　お昼はダーリンといっぱいキスできて満足」

【瑠莉】「ここ最近で5本の指に入るほどのラブラブ度合いだった」

【瑠莉】「んんっ、好き、スキスキスキスキィ……♪」

【瑠莉】「こうやってダーリンの胸にうずくまるの、安心する……けど、いつも私から甘えてばかりなのはつまんない」

【瑠莉】「今日の私たちは新婚ほやほやの夫婦。ダーリンは日々のお仕事の疲れを癒すために最愛の妻に甘える……これは世の摂理」

【瑠莉】「ということで……はい、ダーリン。私の膝に頭乗せて。膝枕しながら耳かき、してあげる」

【瑠莉】「ん、遠慮しないでいっぱい私に甘えて欲しい。そうしてくれると私も嬉しいから」

【瑠莉】「んっ……あ、もう少し顔下に向けて。私の胸が大きくて、お耳がちょっとよく見えない」

【瑠莉】「うん、そこ、丁度良く見える。……それじゃあ、耳かき始めるね」

【瑠莉】「どう？　私の耳かき……痛くない？　気持ちいい？」

【瑠莉】「よかった。ならこのまま続ける。もっと力を抜いてリラックスして……私の膝に身を任せて……」

【瑠莉】「すごいいっぱい汚れが取れてる……普段から耳掃除してないのが丸わかり」

【瑠莉】「これからは定期的に私がお掃除してあげる」

【瑠莉】「学園でも生徒会室でしてあげるから、いつでも言ってね？」

【瑠莉】「ん、大きいのは大体取れた。残った小さいのは私が飛ばしてあげる」

【瑠莉】「ふぅぅぅぅぅぅぅううぅぅぅぅ……」

【瑠莉】「んっ、耳かきする前より大分綺麗になった。これで、私の声ももっと良く聞こえるようになる」

【瑠莉】「でも長い間耳かきしてなかったから、まだ目にみえないゴミがあるかも」

【瑠莉】「ここはダーリンのお嫁さんにしかできない特別なお掃除で、綺麗にしてあげる♪」

【瑠莉】「んっ、くちゅっ……ちゅぅっ、じゅるっ、ちゅっ……んちゅっ……れろっ……れろれろっ……ん～、ちゅっ……ちゅぱっ……んっ……れろっ……くちゅ……」

【瑠莉】
「んちゅっ、れろっ……れろれろっ……んっ……ダーリィン……んっ……じゅるっ……ちゅっ……」

【瑠莉】
「んっ……ちゅっ……ちゅぱっ……ふぅぅー……好き……ちゅっ……んっ、しゅきぃ……んちゅっ……れろぉっ……れろれろ……れろ……ちゅっ、ちゅるっ、れろれろ……」

【瑠莉】
「ぷはぁ……んっ、ダーリンのお耳、私の唾液でぬれぬれ……なんだかとってもエッチ」

【瑠莉】
「そう、愛し合う人同士でしかしない特別な耳掃除、それは耳舐め」

【瑠莉】
「ただの耳かきじゃとれない汚れも、全部私が舐めとってあげる」

【瑠莉】
「ダーリンはただただ私に身を任せて気持ちよくなって……スゥーーーーーー（深呼吸）」

【瑠莉】
「んぶっ！　じゅりゅりゅっ……！　ぴちゅ、くちゅ……！　んんっ、はぁ、んっ……はぁ……んちゅ……ぐちゅ、ぴちゅ……ふぁぁ……じゅるっ……れろれろ……！」

【瑠莉】
「ぴちゅくちゅ……んん……！　じゅぶぶっ……！　ぴちゅくちゅ……！　ふふっ、れろ……！　ぴちゅ……！　れろっ……じゅりゅっ……」

【瑠莉】「ちゅぷっ……！　じゅるじゅる……！　れろっ！　ぐちょ、じゅぶっ……！　ぴちゅ……！　れろれろ……！　ぴちゅ……！　じゅりゅっ……」

【瑠莉】「んっ！　ちゅぶっ、ちゅうううっ、れろれろっ、れろれろれろ……ちゅっ、ちゅうううううううううう……ん……ん～ぷはっ……はぁ、はぁ……」

【瑠莉】「んっ、完璧。左耳はこれで綺麗になった」

【瑠莉】「それじゃあ次は右耳の番。体こっちに向けて？」

【瑠莉】「む、縮こまったまま動かない……ダーリン早く、私の方に顔向けて右耳お掃除させて？」

【瑠莉】「もう、やっとこっち向いてくれた……って、あ、おちんちん大きくなってる……私の耳舐めで興奮してくれた？」

【瑠莉】「ふふっ、恥ずかしがらなくていい。ダーリンが気持ちよくなってくれてるのが分かって私は嬉しい」

【瑠莉】「だから、今日は耳かきしながら、一緒におちんちんを手でぴゅっぴゅさせてあげる♪」

【瑠莉】「ん、おちんちん逞しくて、我慢汁まみれになってる」

【瑠莉】「耳かきと手コキで、いっぱい気持ちよくなって、ダーリン」

【瑠莉】「耳かきしながら……しーこっ、しーこっ……しーこっ、しーこっ」

【瑠莉】「しーこしーーこっ、しーこしーーこっ」

【瑠莉】「耳かきしながらの手コキなんて初めてだけど……おちんちん、すっごくビクビクしてて気持ちよさそう。新しい性癖、見つけちゃった？」

【瑠莉】「ふふ♪　私の知らないダーリンが見つけられて、すごく嬉しい」

【瑠莉】「それじゃまた息吹きかけるね」

【瑠莉】「ふぅぅぅぅぅぅぅううぅぅぅぅ……んっ、れろぉ……」

【瑠莉】「れろっ、んちゅ、ちゅぷっ……れろっ、んちゅっ、れろっ……んん……ちろっ、れろっ……ちゅく、ん、ちゅぷっ……れろ、ぺろぉ……れろ……」

【瑠莉】「ふふっ、びっくりした？んっ、ちゅっ……このまま耳舐めして、手コキもしてあげる」

【瑠莉】
「れろ……んんっ……れろれろ……ちゅむっ……くちゅ……んん……ちゅぷっくちゅ……んっ……ちゅぷっ……くちゅ……ちゅぷっ……くちゅ……」

【瑠莉】
「んん……くちゅちゅむっ……んっ……ふふっ……もっろ……耳のおふまれ……舌をいれてあげりゅ……んじゅるっ」

【瑠莉】
「んぶっ、じゅるじゅるっ……ぴちゅ、くちゅ……！　んんっ！　はぁあ……ちゅっ……れろっ……れろれろれろれろっ……んっ……びちゅっ……じゅるっ、くちゅ、ぴちゅ……！　もっろ……じゅるっ……れろ……れろれろっ」

【瑠莉】
「んっ……！　ぷはっ……はぁ、はぁ……スゥ……ふぅぅぅぅぅ（息吹き込み）……んっ……ちゅっ」

【瑠莉】
「んっ……ちゅっ……れろれろっ……はぁぁあむ……じゅりゅじゅりゅっ、ちゅぅぅぅっ……んっ……もうおひんひん、限界？　はぁぁんっ……ちゅっ、じゅるじゅるっ」

【瑠莉】
「いいよ、このままいっぱい出して……我慢しないでぴゅぴゅ～ってしてぇ！」

【瑠莉】
「ダーリィン……じゅぷっ……じゅるじゅるっ……はぁぁ……おひんひん……ぴゅっぴゅ♪　れろれろっ……おひんひんぴゅっぴゅ♪」

【瑠莉】「んぷっ！　じゅりゅじゅりゅ……んんっ……ぷはぁっ！　イッて、イッて……ダーリン、イッてぇぇええ！」

【瑠莉】「ひゃっ！　あうぅぅっ！　精液いっぱい出てるっ！　我慢しないで。溜まってる精液、全部出してぇ♪」

【瑠莉】「ほら、ぴゅっぴゅ、ぴゅっぴゅ、ぴゅ～ぴゅ～、びゅるびゅる、びゅるるるぅぅぅう～」

【瑠莉】「ん、やっと収まってきた？」

【瑠莉】「朝一番にあれだけ出したのにお昼にはここまで回復してるなんて、流石は私のダーリン。底なしの精力」

【瑠莉】「ただお耳は綺麗になったけど、精液で私の手と服、ダーリン色に染められちゃった」

【瑠莉】「さすがにこのままはダメだから、お洗濯しつつお風呂にする」

【瑠莉】「ダーリンも一緒に入ろ？　汚れちゃったおちんちん、私が洗ってあげる」

トラック5_天使と湯浴み

【瑠莉】「ん、シャワー気持ちいい」

【瑠莉】「朝からいっぱいエッチな事したから、おまんこぐちょぐちょ。ここでダーリンと一緒にすっきりする」

【瑠莉】「ほら、こっち来て仰向けに寝転がって。マットをシャワーで温めておいたから」

【瑠莉】「え？　何で寮のお風呂場に当然のようにソープマットがあるのかって？」

【瑠莉】「もちろん私が朝ここに来た時点で空気を入れて、いつでもダーリンとお風呂エッチできるようにしておいた」

【瑠莉】「ダーリンのやりたい事の全てを予測して準備して応えてあげる。それが私、ダーリンだけの完璧新妻、瑠莉」

【瑠莉】「ん、話が長くなった。早く。今日1日ダーリンの精液の匂い嗅いでたせいで、おまんこうずうずしてもう我慢できない」

【瑠莉】「それじゃあこのまま精液で汚れたおちんちん、私のお口でお掃除フェラしてあげる」

【瑠莉】
「あ～むっ……んっ、ちゅっ、れろぉっ……
ちゅっ、ちゅぷっ、ぴちゅっ、れろっ、れろれ
ろっ……んじゅるっ、れろっ、ちゅっ、れろれ
ろっ……んっ、相変わらず濃い味で、とってもエ
ッチ♪」

【瑠莉】
「あむっ、ちゅっ……れろっ、れろれろ……ちゅぅ
……ちゅっ♪　じゅるっ、じゅりゅりゅ……
ちゅぅぅぅ～～……んちゅっ♪　れるっ、ん
ちゅっ♪　ちゅぷくちゅっ♪」

【瑠莉】
「カリのところ、汚れ溜まっちゃってる……いっぱ
いぺろぺろして綺麗にしてあげるね」

【瑠莉】
「は～～～むっ、はっ、ちゅぱっ、んっ、ちゅっ、
れろぴちゅっ……れろれろ……んちゅっ、ちゅ
ぱっ、れろれろれろっ……」

【瑠莉】
「んちゅっ、ちゅぱ……ちゅっ……れろっ、ん
ちゅっ……んんっ……はふっ……ちゅ……ちゅ
ぷっ、れろっ……」

【瑠莉】
「んっ、ぷはっ……もっろ、喉の奥まで咥えて、お
口全体を使って、お掃除してあげるね」

【瑠莉】
「あ～～～むっ、ちゅぶ、ぶぶぶっ、はぁ……れ
ろ、ちゅぷっ、じゅるっ、じゅぶ……じゅぶぶっ
…れろっ、くちゅ、ちゅぱっ、ちゅぷ、んふっ
ん、ぶぶぶっ……！」

【瑠莉】
「じゅぶぶぶぶっ……！　れろくちゅぷっ……ちゅぷっ！　ダーリンの、おいひい……れろっ……んふっ、れろ、ちゅぷっ…」

【瑠莉】
「ちゅむっ、んっ、はぁ、はむ……じゅるじゅるるるっ、ぢゅぷぷっ！　んぷっ、んちゅっ！　んじゅるるるっ……ふぁっ、あぁふ、わらひのお口で、いっふぁい綺麗になっれぇ……」

【瑠莉】
「んちゅっ、れろっ……じゅりゅっ……んちゅっ……はあああぁぁぁ……んっ……れろれろっ、じゅぷっ、くちゅう……」

【瑠莉】
「じゅぶっ！　じゅるうっ！　んじゅぶ、じゅるっ、じゅぶるぅ……んじゅっ、じゅるっ、じゅるるうっ」

【瑠莉】
「ちゅぱっ、ちゅぷっ、じゅるじゅるじゅるっ、ちゅっ、ちゅぅぅう、ちゅうううぅぅぅ～～……ごくっ、ごくっ、ごく……ん、ぷはぁっ、はぁ、はぁ……」

【瑠莉】
「ふぅ……これでおちんちんの汚れ全部舐めとれた……ふふ♪　ごちそうさま♪」

【瑠莉】
「ムフー♪　おちんちん綺麗になったし、今日の最後に、このまま私のおまんことダーリンのおちんちんで、セックスしよ？」

【瑠莉】「朝におまんこ弄って以来おあずけだったから、もう我慢できない……」

【瑠莉】「んっ……おまんこの穴に、ダーリンのおちんちん当たってるのわかる？」

【瑠莉】「ダーリンにいっぱい犯されて、私のおまんこ、オナホみたいに使ってもらう事想像してたら、エッチなお汁止まらなくなっちゃった」

【瑠莉】「こんなエッチなお嫁さんはいや？　……ん、知ってた。ダーリンは私と同じでエッチでスケベ。そんなところも大好き」

【瑠莉】「ん……ちゅっ」

【瑠莉】「んっ、んうううぅぅぅっ、ん、ふ、ふうぅっ、は、はぁ……あんっ！」

【瑠莉】「やっ、ひゃっ、やぁぁ……は、入っちゃったぁ……あぁっ、ひゃんっ♪　はぁ、ふぅ、ふぅ……」

【瑠莉】「え、えへへ、ダーリンの熱いおちんちん、お腹の中ですっごく感じられて気持ちいい……♪」

【瑠莉】「ダーリンも私のおまんこの熱、感じてくれてる？」

【瑠莉】「えへへ、嬉しい。心も体も繋がってるんだって実感できるの。好き、大好きぃ♪」

【瑠莉】
「このまま、私の濡れ濡れおまんこでいっぱいしごいてあげる♪」

【瑠莉】
「んっ、はぁああっ……　あっ、あっ、あぁっ、ひあああっ！　ひぁっ、あぁああっ、あぁんっ！」

【瑠莉】
「やぁっ！　ひゃっ、あぁんっ！　んっ、ふぅっ、んんっ！　おまんこ、気持ちいい……声、出ちゃう……」

【瑠莉】
「ダーリンも、気持ちよさそう……我慢しないで、いっぱい気持ちよくなって」

【瑠莉】
「あっ、あんっ！　ふぁっ、あぁっ……んふっ、ふぁんっ！　やっ、あぁ、あんっ……頑張って腰振る度に、頭の中真っ白になっちゃう……」

【瑠莉】
「んふっ、んっ、あぁあっ……おちんちんパンパンってされて、私のエッチなお汁、ぴちゅぴちゅ出ちゃってる……」

【瑠莉】
「ん、はぁああぁっ……中でゴリゴリって……やぁ、おっきくて奥まで、私の子宮まで届いてる」

【瑠莉】
「ねぇ、ダーリン……手繋いでもらってもいい？あ繋いでないと、私の体、どこかに飛んでいっちゃいそうで怖いの……」

【瑠莉】
「あ、手、恋人繋ぎ……えへへ、あったかい……まさに新婚ラブラブセックスって感じがして、この体勢、大好き」

【瑠莉】
「このまま腰振りながらキスしよ？　いっぱい大人のキス……エッチなキス……んっ、ちゅっ……」

【瑠莉】
「んちゅ……！　ちゅぷっ、ちゅぱっ！　ちゅっ、ちゅぷ、んちゅっ……！　ちゅっちゅ……！　ちゅぱっ、んちゅ、じゅぶ……！　ちゅぷっ、ちゅくんっ……」

【瑠莉】
「ちゅぱ、んちゅっ……！　ちゅるっ……！　はぁ、ダーリンのよだれ、美味ひぃ……！　ダーリン、しゅきぃ……しゅきしゅきぃ！　んちゅ、れろっ、ちゅぱっ、んちゅ……！　れろ、ちゅっ、ちゅぷっ……！」

【瑠莉】
「はぶっ！　じゅぶ、じゅりゅ……！　ちゅるるっ、ちゅぱ、ちゅぶ、ちゅくっ……！　じゅりゅりゅっ、ちゅぱ、んちゅ……！　ぴちゅ、くちゅ……！　んん……！　んふっ……！」

【瑠莉】
「くちゅ、ぴちゅ……！　んちゅ、じゅぶ、んちゅ、れろっ、ちゅく……！　ちゅぱっ、んちゅ……」

【瑠莉】
「ぷはっ……これしゅごしゅぎ……幸せの波が止まらない」

【瑠莉】
「ダーリンのおちんちんも、私の中で膨らんでて、出ちゃう寸前なのわかる」

【瑠莉】
「私も、もう我慢の限界……このまま中で……おまんこの一番奥でそのまま一緒にイこう？」

【瑠莉】
「やぁ、あんっ、んひゃっ！　あぁっ、イッちゃうぅっ……　おまんこイク！　ダーリンのおちんちんでイかされちゃう！」

【瑠莉】
「ダーリン、ダーリン！　ダーリン！！　ダーリィン！！！」

【瑠莉】
「イッて！　おまんこの中で、ダーリンの想い、全部受け止めさせてぇ！！」

【瑠莉】
「はひっ！　いっ！　イッ！　イクッ！　ひゃうぅぅぅぅぅ！！　ん、はぁあっ、あぁ、はひぃぃ……」

【瑠莉】
「しゅごいぃ……ダーリンの精液、いっぱい子宮の奥に注がれてるの分かる……」

【瑠莉】
「中出しの気持ちいいのが、まだ続いて……おまんこ、ダメぇ……気持ちよすぎておかしくなっちゃう……」

【瑠莉】
「はぁ、はぁ、んっ、あっ、やんっ！　はぁ、ふぅぅぅ……おちんぽ、段々と小さくなってきて、射精落ち着いてきたみたい……んっ、ダーリン、お疲れ様。今日も1日とっても幸せだった」

【瑠莉】
「でも、明日までは新婚プレイを続けるから、またいっぱいイチャイチャする」

【瑠莉】
「それと明日は少し付き合ってほしいところがあるから、出かける準備をしておいてほしい」

【瑠莉】
「んっ、行先は内緒。今言っちゃうとつまんない」

【瑠莉】
「きっと気に入ってくれると思うから、明日になるまで、楽しみに待っててて♪」

トラック6_天使の寝息

【瑠莉】「んー……すぅー……」

【瑠莉】「んんぅ……ダーリィン……好きぃ……だいしゅきぃ……」

【瑠莉】「んー……すぅー……」

トラック7_天使とお出かけ

【瑠莉】「流石に日曜日のお昼は人が多い」

【瑠莉】「はぐれないように腕はしっかり組んでおく。ダーリンも、もっと私のおっぱいの中に腕うずめて、密着して」

【瑠莉】「ふふっ、これで絶対離れる事はないし、ナンパされることもない」

【瑠莉】「誰が見ても、世界で一番お似合いな理想の夫婦。ムフーーーーー♪」

【瑠莉】「ん？　今日の目的地をいい加減教えてほしい？」

【瑠莉】「それはダメ。今回のデートはサプライズデートだから、いくらダーリンのお願いでもこれだけは答えられない」

【瑠莉】「でも、絶対喜んでくれるって確信がある。だからもう少しだけ待ってほしい。最愛のお嫁さんの頼み、聞いてくれる？」

【瑠莉】「えへへ、ここまで言えば、ダーリンなら分かってくれるって信じてた。ありがと、ダーリン。大好き」

【瑠莉】「んっ……ちゅっ♪」

【瑠莉】「ふふっ♪　顔真っ赤♪　恥ずかしがってるダーリン可愛い♪」

【瑠莉】「周りの人なんて関係ない。私は、私の想いのままにTPOをわきまえずにキスをする」

【瑠莉】「ダーリンもいつでもキスしてきていいから。むしろもっと欲望のままに私を求めてほしい……お外でもどこでも、ダーリンの全てを受け入れる準備はとっくにできてる」

【瑠莉】「ふふっ……照れてるダーリンは可愛いくてもっと見ていたいけど、今はこのくらいにしておく」

【瑠莉】「あ、もうそろそろ目的地に着く」

【瑠莉】「ダーリン、ごめんね？　昨日から思わせぶりな事ばっかり言って焦らしちゃって」

【瑠莉】「でも、どうしてもダーリンには当日にサプライズして喜ばせてあげたかったから」

【瑠莉】「だから、どうか受け取って欲しい。私の渾身のサプライズデートシチュエーションを」

【瑠莉】「そう、今日の目的地は……」

【瑠莉】「ここ。結婚式場」

トラック8_天使と未来

【瑠莉】「ほら、ダーリン、カメラに向かって笑って」

【瑠莉】「ふふっ、ダーリンのタキシード姿、すっごく素敵……」

【瑠莉】「本当の結婚式の前に、一度ウエディング衣装を体験してみたくてブライダルモデルに応募してみたけど……応募して大正解だった」

【瑠莉】「私のダーリンは間違いなく世界一のイケメン紳士」

【瑠莉】「今まで数えきれないくらい惚れ直したことはあったけど、今日以上の衝撃は、多分本番の結婚式までないと思う」

【瑠莉】「それくらい完璧な着こなし。私の脳内ダーリンフォルダに永久保存確定」

【瑠莉】「今度はダーリンの感想を聞かせて？　私のウエディングドレス姿はどう？　綺麗？」

【瑠莉】「ん、言葉にしなくても、ダーリンの表情だけでもう分かった」

【瑠莉】「放心しちゃうほど気に入ってくれたみたいで嬉しい。着た甲斐があって良かった。ムフーーー♪」

【瑠莉】「ん？　こんな適当な会話をしていて撮影は大丈夫なのか不安？」

【瑠莉】
「そこは大丈夫、問題ない。今回は仲睦まじい新郎新婦の自然な姿がテーマ」

【瑠莉】
「変に意識しすぎるのもダメ。たまにカメラに目線をくれるくらいで、基本はいつもの私たちのイチャイチャを見せつけていればいい」

【瑠莉】
「ダーリンとイチャイチャしている時が、私が生きている中で間違いなく最高の瞬間だから」

【瑠莉】
「きっとその瞬間を切り取った写真は世界で一番幸せな写真になる」

【瑠莉】
「今撮影しているカメラマンは、私たちのおかげで世界一のブライダルカメラマンになることは確定的に明らか」

【瑠莉】
「カメラマンの為にも、そして何より私達自身が楽しむ為にも、もっとイチャイチャしてる姿を見せつけてあげなきゃダメ」

【瑠莉】
「ということで、ダーリン。花嫁の私を力いっぱいぎゅうぅぅぅ〜〜ってして♪」

【瑠莉】
「きゃっ！　はうぅ……ぎゅっとしてもらうのなんて毎日のようにやってるのに、今日は何だか恥ずかしくなっちゃう」

【瑠莉】
「やっぱり、式場でダーリンとっていうシチュエーションがとてつもないスパイスになってる」

【瑠莉】「ん、流石プロのカメラマン。私たちの感情が昂った瞬間は見逃さない」

【瑠莉】「素敵な式場に、素敵な衣装、そしてプロのカメラマン。ここまで完璧なシチュエーションが揃っちゃうとどうしても本番の事をイメージしちゃう」

【瑠莉】「ダーリンは将来私と結婚する時、どんな結婚式にしたい？」

【瑠莉】「私はダーリンと結婚式が開けるなら形式とかには特にこだわりはない」

【瑠莉】「今みたいに教会での洋式ウエディングでもいい」

【瑠莉】「ウエディングドレスを着た私をダーリンが抱きしめてくれて、神父さんやお母さん達の前で愛を誓いあってキスをする……」

【瑠莉】「想像するだけで胸がいっぱいになっちゃうような甘い展開になること間違いなし、ムフー♪」

【瑠莉】「または、日本らしく白無垢を着て神社での和式ウエディングもいい」

【瑠莉】「私は生まれが外国だったから、日本の結婚式には結構興味がある」

【瑠莉】
「それに白無垢は脱がしやすそうだから、ダーリンとの結婚初夜が盛り上がりそうで楽しみ、ムフー♪」

【瑠莉】
「それか、いっそ日本から出て海外ウエディングも楽しそう」

【瑠莉】
「澄んだ青い海に青い空……吹き抜ける潮風にドレスをなびかせながら、ダーリンと一緒に花々で彩られたヴァージンロードを歩く……」

【瑠莉】
「どんな結婚式でも、ダーリンと一緒なら、きっと楽しくて幸せな結婚式になる」

【瑠莉】
「これは希望や願望なんかじゃなくて、絶対に変わることのない確信」

【瑠莉】
「だからね、ダーリン……今はただのモデル撮影でしかない、おままごとかもしれないけど」

【瑠莉】
「2人で学園を卒業して、将来がきちんと見えてきたら、その時は……」

【瑠莉】
「私にプロポーズして♪　本当の結婚式しよ♪
んっ……ちゅっ……♪」

トラック9_天使と愛

【瑠莉】「ん、控室の鍵は閉めた」

【瑠莉】「撮影がスムーズに終わったから予定より自由に使える時間が増えてここから数時間、この場は私とダーリンの2人っきり」

【瑠莉】「だからね、ダーリンッ！」

【瑠莉】「はむっ……んちゅっ……んぁ……はぁ、はちゅっ、んちゅっ……んっ、んっ……」

【瑠莉】「ちゅっ……れちゅ……んっ、んちゅ……んっ、ちゅっ、ちゅぷっ……んっ……ぷはっ……」

【瑠莉】「んん……はぁ、もぉ我慢できない……ダーリン……ウエディングドレス姿の私を、新妻の瑠莉をここで抱いて……私の事、これまでのどんなエッチよりも激しく求めて欲しい」

【瑠莉】「何したっていいよ……遠慮なんかしないで……ダーリンの想いのままに、私を滅茶苦茶にして……」

【瑠莉】「ダーリンのエッチなおちんちんで、私のおまんこ孕ませてぇ♪」

【瑠莉】「んっ、はむぅ！　んっ……ちゅっ♪　ちゅっ……ちゅっ……れろっ……れろれろ……はぷっ……ちゅっ……ちゅっ♪」

【瑠莉】
「……ちゅっ……ちゅぷっ……すき……ちゅっ……ちゅっ……んー……ちゅっ……ちゅっ……はぁ……大好き♪　ちゅっ……ちゅっ♪」

【瑠莉】
「んちゅっ……んっ……んんっ……はぁ……はぁ、んっ……はぁぁ……」

【瑠莉】
「ダーリン……キス、凄い……こんなに昂るキス……久しぶり」

【瑠莉】
「もっと激しいの欲しい……舌出して……いっぱいぺろぺろしよ？」

【瑠莉】
「はぁむっ……くちゅ、ちゅぷっ……んんっ……くちゅ……ちゅっ……れろれろ……！　んんっ！　んふっ……ちゅっ……ちゅぷっ」

【瑠莉】
「れろれろ……んんっ……ちゅむっ……くちゅ……んん……ちゅぷっくちゅ……！　ちゅっ……れろっ、ちゅっ……んんっ……！」

【瑠莉】
「んちゅ……！　ちゅぷっ、じゅぶぶっ……！　ちゅぷっ、ちゅぱ、んちゅっ……！　ちゅっちゅ……！　ちゅぱっ、んちゅ、じゅぶ……！　ちゅぷっ、ちゅくんっ……！」

【瑠莉】
「ちゅぱ、んちゅっ……！　ちゅるっ……！　はぁ！　ダーリィン……！　ダーリンの唾液、らいしゅき……！　んちゅ、れろっ、ちゅぱっ、んちゅ……！　れろ、ちゅっ、ちゅぷっ……！」

【瑠莉】
「もっろ……！　いっふぁい、飲ませてっ……
んっ、はぶっ！　じゅぶ、じゅりゅ……！　ちゅぶぶっ、ちゅぱ、ちゅぶ、ちゅくっ……！　ちゅぷぷっ、ちゅぱ、んちゅ……！　ぴちゅ、くちゅ……！　んん……！　んふっ……！」

【瑠莉】
「はぷっ！　ちゅぷっ……！　んちゅ、じゅりゅ、じゅりゅりゅ……！　んちゅ、れろっ、ちゅく……！　ちゅぱっ、んちゅ……！」

【瑠莉】
「んっ、んちゅ、ぷはっ……はぁ、はぁ……離れちゃ、やぁ……もっとぉ……いっしょぉ……あっ♪」

【瑠莉】
「んちゅっ……ちゅぷぷっ……れろれろ……ちゅぷっ……くちゅ……はあんっ……ちゅっ……んんっ……ちゅうっ……じゅりゅう……ちゅっ……じゅっ……」

【瑠莉】
「んー……ちゅっ……！　れろっ、ちゅぷっ……！　れろれろっ、んちゅっ……！　ちゅぷっ、ちゅっ……！　ちゅぷっ、くちゅ……！　れろれろ、ちゅくん……！　んちゅぷっ……！」

【瑠莉】
「はぁうぅ……ダーリン、もう我慢できないって顔してる……それに、ここもズボンの中でぱんぱんに膨らんで……」

【瑠莉】
「ドレス姿の私に興奮してくれて、すっごく嬉しい」

【瑠莉】
「今日はまだ一度も射精させてあげられてなかったから、私の体でいっぱい気持ちよくなってほしい」

【瑠莉】
「私も、撮影中にダーリンと結婚のお話をしている時から、すっかりおまんこぐちょぐちょになってた」

【瑠莉】
「ダーリンへの愛しさと切なさが止まらない……こんなの、もう我慢できない」

【瑠莉】
「だからお願い……どうか、私の発情おまんこに、ダーリンのおちんちん……ううん、おちんぽ、このまま入れて？　一緒に気持ちいいセックスしよ？」

【瑠莉】
「ひっあああぁぁぁあぁんっ♪」

【瑠莉】
「あぁあぁっ、はふぅっ、あぁ、大きいっ……　一気に子宮までおちんぽ入ってきたぁ……」

【瑠莉】
「はぁっ、あぁん……おちんぽしゅごいぃ……力強くて、私の中で震えてる……」

【瑠莉】
「エッチ始まったばかりなのに、気持ちいいのが止まんない……」

【瑠莉】
「ダーリンも、もう動きたくて仕方ないよね？　いいよ……このまま新妻おまんこ使って、いっぱいしごいて、欲しがりおまんこの奥にぴゅっぴゅして♪」

【瑠莉】
「んっああっ……ああっ、はひぃんっ……あぁんっ、おちんぽ、激しい……あ、ああんっ」

【瑠莉】
「おまんこもぉ、ぎゅうぅぅっておちんぽ締めて、気持ちよくっ……はぁああっ、あはっ……はっあぁぁんっ」

【瑠莉】
「これ、おまんこ締めるとぉ……あぁっ、私もすっごく感じちゃってぇ……んはぁあっ」

【瑠莉】
「はひぁああっ、あぁんっ……あっああっ……おちんぽ、奥ぅ、しゅごいぃ……」

【瑠莉】
「ああっ、はぁんっ……おちんぽ凄すぎて、私、どうにかなっちゃいそう……」

【瑠莉】
「ねぇ、ダーリンっ……あああっ、はぁ、あぅんっ……セックスしながらでいいから、私のこと、抱きかかえてぇ……離さないでぇ……」

【瑠莉】
「これ、気持ちよすぎてどこかにイっちゃいそうなの……ああっ、はふぅん！　あっ、ああっ、だから、だからぁ……」

【瑠莉】

「はぅんっ……はぶっ、ちゅっれろっ……んんっ、ちゅぷっ、れろっ……きしゅぅ……ん、ちゅぱっ……んちゅっ……れろれろっ……んあむっ……ふっ、ちゅくっ、れろ、ちゅる……ちゅっ、ちゅ、んむ……」

【瑠莉】

「ちゅ、ふっ、れろっ……はぷ、ん、ちゅっ……んちゅっ……れろっ、んぷっ……ちゅっちゅっ、れろれろっ、ちゅぷっ……れろっ、んちゅっ、れろっ……ちゅぷっ、れろっ」

【瑠莉】

「んん……ちろっ、れろっ……ちゅく、ん、ちゅぷっ……れろ、ぺろぉ……えろ、んちゅろ、れろぉ……ちゅぷっ、ちゅぱっ……んちゅっ、ちゅっ、れろっ……ちゅぷっ……」

【瑠莉】

「ちゅぷっ、ふぁぁ……ダーリィン……キスしながらのせっくしゅ……んんっ……れろれろ……くちゅ……んふっ……ちゅむっ……くちゅ……れろれろ……ちゅぷっ、れろっ、くちゅ……ちゅっ、れろっ、ちゅぷっ」

【瑠莉】

「んちゅっ……はふぅっ、おまんこよすぎて、頭の中が真っ白になっってきて……れろっ、ちゅぱ、ぷちゅ、んっ……んくっ、とろとろになって何も考えられなくなっちゃってる……」

【瑠莉】
「ちゅぷっ……ちゅぷっ……くちゅ……ちゅぷっ……れろれろ……んふぅん……ちゅむっ……れろっ……れろれろれろっ……」

【瑠莉】
「あむっ……ちゅむっ……くちゅ……れろれろ……ちゅぷっくちゅ……くちゅちゅぷっ……くちゅっ、ちゅぷっんっ、くちゅ……れろれろっ、れろれろっ……ちゅむっ……ちゅぷっ……」

【瑠莉】
「んっ、ぷはっ！　ダーリン、もう限界？　いいよ、出して。ドレスにかかっちゃわないように、ダーリンの精液、全部私のおまんこに出してぇ！」

【瑠莉】
「私も、一緒に……イク、イクッ！イクイクイクイク……イッックゥゥゥゥゥウウウ！！！」

【瑠】
「はあああぁぁぁぁぁうっ！　うあああぁ、あ、あっ……んっ、ふ、あ、あああぁ～～～んっ！」

【瑠莉】
「ぷあ、あ、あ……っ、ん、んんん～～っ！
は、はぅ、あ、あ……っ、ふ」

【瑠莉】
「ダーリンのっ、いっぱいきてるの分かる……」

【瑠莉】
「今も、んっ、は、はぅ……まだおまんこ、イッてるの……続いちゃってるの……はぁ、はぁ……ふぅぅ……」

【瑠莉】
「んっ、えへへ、一緒にイけて、嬉しい♪　やっぱり私とダーリンの相性は抜群♪」

【瑠莉】
「でも、一回だけじゃ全然物足りない。もっともっと、いっぱいエッチ、しよ♪」

【瑠莉】
「このまま私の事押し倒して、孕ませて……あっ♪　きゃぁんっ！！」

【瑠莉】
「えへへ、ダーリンに押し倒されちゃった……♪　って、あ、これネットで見た。確か種付けプレスっていう体位……ふふ♪　ダーリン、本当に私のこと孕ませちゃう気なんだね」

【瑠莉】
「嬉しい。ダーリンからこんなにはっきり求められるなんて……やっぱり私、責められる方が好きなのかも」

【瑠莉】
「ね、ダーリン。このまま上から私のおまんこ押しつぶして♪　子宮の奥にまたおちんぽミルクいっぱい出してぇ♪」

【瑠莉】
「ん！　ぅ、は、あああぁんっ！　は、はぁ〜〜っ、あ、あ……ぁ」

【瑠莉】
「あぁああっ、はぅううんっ……またおちんぽ動いて……嬉しい」

【瑠莉】
「はぁあんっ！　あぁあっ、もっと、もっとぉ……私にダーリンの想いぶつけてぇ！」

【瑠莉】
「ひゃああっ、あはぁああっ、おちんぽぉ……子宮の奥コンコンってノックして……私を孕ませようと必死におまんこに挨拶してるの……」

【瑠莉】
「硬くて逞しくて……んはぁああ！　ああ……はひゃあんっ！　ダーリンの勃起おちんぽぉ……」

【瑠莉】
「あぁああんっ！　んあぁっ……ダーリンも、わたしのおまんこの奥……赤ちゃんのお部屋、感じて……いっぱいパンパンってして気持ちよくなって」

【瑠莉】
「んふぁぁあっ、あぁ……嬉しいよぉ……私たちまだ学生なのに、結婚式場でウェディング衣装を着ながら、素敵なお部屋でこんなんに激しく孕ませセックスしてるんだもん……」

【瑠莉】
「はぁっ！　あんっ……あぁんっ、嬉しすぎて、どうにかなっちゃいそう……」

【瑠莉】
「んはぁあぁ……はぁ、はぁ……ダーリンにも気持ちよくなって欲しい……だから、耳貸して……」

【瑠莉】
「あむっ……ちゅむっ……くちゅ……れろれろ……ちゅぷっくちゅ……くちゅちゅぷっ……くちゅっ、ちゅぷっんっ、くちゅ……れろっ、れろれろっ……ちゅむっ……ちゅぷっ……」

【瑠莉】
「んっ……くちゅっ……じゅるっ、じゅるじゅるっ……ふぁぁ……しゅきっ……らいしゅきっ……んっ……れろっ……れろれろっ……ん～ちゅっ……ちゅぱっ……んっ……れろっ……くちゅ……」

【瑠莉】
「んっ……ちゅっ……ちゅぱっ……ふぅぅ……好きぃ……ちゅっ……んっ、ダーリンしゅきぃ……んちゅっ……れろぉっ……ちゅっ、ちゅるっ……んっ、愛してる……じゅるっ……れろれろ……」

【瑠莉】
「んぶっ！　じゅぶぶぶっ……！　ぴちゅ、くちゅ……！　んんっ！　はぁ……んっ……はぁ……れろれろ……んっ……くちゅ……！　ぐちゅ、ぴちゅ……！　ふぁぁ……じゅるっ……れろれろ……！」

【瑠莉】
「ぴちゅっ……！　んんっ……！　ふぅ……！　じゅぶぶっ……！　ぴちゅくちゅ……！　ふふっ……♪　れろれろ……！　ぴちゅ……！　れろっ……んっ……ちゅっ……ちゅうううぅぅぅぅ……ん、ぷはっ」

【瑠莉】
「ふぁぁぁあ、はぁ、はぁぁ……んっ、もうダーリンへの愛が……溢れて溢れて止まらない……愛してる、ダーリィン……」

【瑠莉】
「お願いダーリン、私もう我慢できない……ダーリンの赤ちゃん欲しい……」

【瑠莉】「いっぱいダーリンの赤ちゃんを孕んで、幸せな家庭を作るの」

【瑠莉】「だから、このまま私のおまんこの中、一番奥の赤ちゃんのお部屋に、熱くて濃厚なダーリンの孕ませミルク、いっぱい注いで！　新妻瑠莉のおまんこ孕ませてぇ！！」

【瑠莉】「はふっ！　ふあああぁぁぁっ……！」

【瑠莉】「あひぃいいっ……！　イクっ、うぅうんっ……ん、はぁあっ、あぁ、はひぃいんっ……」

【瑠莉】「おまんこのおくぅ、子宮までダーリンの届いてるぅ……中出し気持ちいい……孕ませせっくしゅ、気持ちいい」

【瑠莉】「んっ、はぁあああっ……　あぁあああっ、イクぅううっんんぅううっ……　まだイッてるぅ……」

【瑠莉】「熱くて、濃いのでいっぱいになってぇ……　おまんこ蕩けちゃうぅっ……」

【瑠莉】「えへへ、ダーリンも顔蕩けてる♪　いいよ、このまま暫く繋がって気持ちよくなろ」

【瑠莉】「こんなに激しくセックスしたのは初めてかも」

【瑠莉】「たくさん私のおまんこに中だししてくれて嬉しい」

【瑠莉】「ん、大丈夫。今日はちゃんと安全日だから」

【瑠莉】「でも、赤ちゃん孕んでからの学生結婚も、少し憧れるところはある」

【瑠莉】「ふふっ、冗談。憧れは確かにあるけど、無責任なのはダメ」

【瑠莉】「それに赤ちゃんは早く欲しいけど、もう少しダーリンとの2人っきりの時間を過ごしたいから」

【瑠莉】「学園を卒業してきちんとした環境を整えてから、改めて子作りセックスする♪」

【瑠莉】「んっ、約束。子供の頃みたいに忘れちゃいや」

【瑠莉】「忘れちゃわないように、毎日イチャイチャしておく」

【瑠莉】「ダーリンも、私の事離しちゃダメ」

【瑠莉】「私って割と面倒な女だから。定期的に束縛されておかないとどうにかなっちゃう」

【瑠莉】「だから、いつまでも私を離さず、ぎゅうぅぅって抱きしめて……私に愛を注ぎ続けて……」

【瑠莉】「そして、近い将来、私にプロポーズして♪」

【瑠莉】「ずっと待ってるからね？　ダーリン♪」

トラック10_おまけ_甘好きループ

【瑠莉】「ムフーー♪」

【瑠莉】「ダーリン、好き、すきすきぃ～」

【瑠莉】「ん、ちゅっ……すき、ちゅっ、ちゅっ♪　しゅきぃ……」

【瑠莉】「ちゅっ、んちゅ……ちゅぷ……はむ、んっ、ちゅっ……」

【瑠莉】「んちゅっ、れろ……れろれろ……ちゅっ、ちゅぅぅ～～……んっ、ぷはっ」

【瑠莉】「んっ……えへへ、ダーリン、大好き……んーちゅっ♪」

【瑠莉】「ん……好き……すきぃ……♪　大好きぃ……♪ちゅっ♪　ちゅっ、ちゅぅぅ♪」

【瑠莉】「ん、好き……大好き……愛してる……」

【瑠莉】「んちゅっ……れろっ……れろれろ……あむっ、ちゅっ、ちゅぷっ、れちゅっ♪」

トラック11_おまけ_左耳舐めループ

『左耳』

【瑠莉】
「んっ、ちゅっ……ちゅぷっ……はぁむ、れろ……ちゅっ……ちゅぷくちゅっ……ちゅっ、れろ……れろれろ……ちゅっ、はむっ……ちゅっ、ちゅっ……はぷちゅっ……」

【瑠莉】
「んっ、くちゅっ……ちゅぅっ、じゅるっ、ちゅっ……んちゅっ……れろっ……れろれろっ……ん～、ちゅっ……ちゅぱっ……んっ……れろっ……くちゅ……」

【瑠莉】
「んん……ちゅっ……ちゅぷっ、ん～ちゅっ♪　れろ、ちゅりゅ……れろれろ……れ～、んちゅっ、ちゅぷっ……れろれろれろ～……ちゅうううう……んちゅぷっ……」

トラック12_おまけ_右耳舐めループ

『右耳』

【瑠莉】
「んっ、ちゅっ……ちゅぷっ……はぁむ、れろ……ちゅっ……ちゅぷくちゅっ……ちゅっ、れろ……れろれろ……ちゅっ、はむっ……ちゅっ、ちゅっ……はぷちゅっ……」

【瑠莉】
「んっ、くちゅっ……ちゅぅっ、じゅるっ、ちゅっ……んちゅっ……れろっ……れろれろっ……ん～、ちゅっ……ちゅぱっ……んっ……れろっ……くちゅ……」

【瑠莉】
「んん……ちゅっ……ちゅぷっ、ん～ちゅっ♪　れろ、ちゅりゅ……れろれろ……れ～、んちゅっ、ちゅぷっ……れろれろれろ～……ちゅうううう……んちゅぷっ……」